

イスラム教の安息日の金曜日。ビーチはカラフルに彩られている。数年前には想像できない光景だ(2013年)

地球ギャラリー vol.66

# Somalia

[ソマリア]

写真・文=下村靖樹(ジャーナリスト)

# 動き出した時間



モガディシュ沖を航行する船舶を海賊から守るためパトロールに出る兵士



政府軍兵士として戦う17歳(当時)の少年。生まれてから一度も、戦争のない世界を経験したことがない



栄養失調の検査を受ける子ども。世界保健機関(WHO)の指針では、二の腕の外周が115ミリ以下は深刻な栄養失調とされている



干ばつによる飢餓から逃れ、避難民キャンプで暮らす子どもたち

見事なスカイブルーの空からギラ  
ギラと太陽が照りつけ、体中から汗  
が噴き出してきた。レンズ越しに見  
えるのは、穏やかな波が打ち寄せる  
インド洋。ソマリアの首都モガディ  
シュで最も人気があるリド・ビーチ  
は、多くの笑顔で溢れていた。水を  
かけ合いはしゃぐ少年たち、デート  
中のカップル、新鮮なシーフード料  
理に舌鼓を打つ家族―。

よみがえり、私は目の前の光景が現  
実だと簡単には信じられなかった。  
1960年に独立を果たしたソマ  
リア。しかし国民は「ソマリア国民」  
であることよりも、綿々と受け継が  
れてきた「氏族」への帰属意識の方  
が強く、独立後、特定氏族の優遇や  
汚職がまん延した。それに対し冷遇  
されていた氏族たちは、隣国エチオ  
ピアとの領土紛争を機に反政府活動  
を活発化。91年に首都は陥落したが  
新たな政権を担える勢力は台頭せ

ず、無政府状態となって泥沼の内戦  
へと突入していった。  
2002年、9・11テロの首謀者  
とされるウサマ・ビン・ラーディン  
が潜伏しているとの噂を追い、初め  
て足を踏み入れたソマリアは内戦真  
つただ中。想像を超えるカオスだっ  
た。目に映る全ての建物に銃弾や砲  
弾の跡が残り、大砲を取り付けた武  
装車両がそれぞれの氏族の民兵を乗  
せ、猛スピードで走り回っていたの

地球ギャラリー vol.66

撮影：2002年、2010年、2011年



武装車両に取り付けられた対空砲を操る有力氏族の少年民兵



銃弾と砲弾で蜂の巣になった首都モガディシュ中心部の民家

急速に整備された携帯電話回線。  
データ通信も高速化し、スマートフォンが爆発的に普及している



イタリアの影響力が特に強かった  
ジョハール地域では、今も主食は  
パスタ。避難民キャンプでもパスタ  
マシンは必須だ



サッカーに興じる子ども  
たち。2002年の初訪問  
時にも、この空き地では  
同じ光景が見られた



モガディシュの旧ソマリア中央銀行の屋上から望む海岸沿いのクルバホテル。内戦前は国内最高級ホテルだった

間断なく空に響く乾いた銃声。そこはまるで戦国時代。21世紀にこんな国が存在しているのが驚きだった。

22年ぶりに「ソマリア連邦共和国」として、国としての再出発を果たしたのだ。しかし、長年の内戦により受けた傷を癒やすのは簡単ではない。難民として長期間国外で生活していた人もいれば、国内で紛争に耐え続けて

いた人もいる。国の機能のほぼ全てが集中する首都と、基盤が脆弱な地方との格差は、今後深刻な問題になってくるだろう。日が傾き始めたころ、風が強くなってきたインド洋を背景に、慣れない手つきでカメラを構える父親と、母

親に寄り添い、少し照れながらポーズを取る子どもたちの姿があった。日本にいる我々には想像できない苦しい生活を耐え続けてきた人々。彼らこそが、そんなありふれた日常の光景を、この国全体に広げられると信じた。



1万3,000人が暮らす南部のジョハール避難民キャンプの夕暮れ



洪水で水没した幹線道路の状況を確認する兵士たち

## 女性のおしゃれといえば

### ヘナペイント

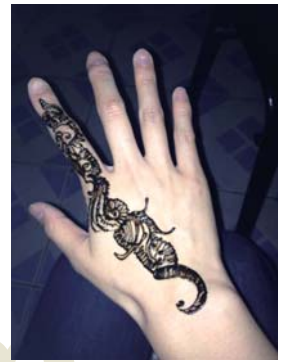


カラフルなスカーフをまとったソマリアの女性たち (撮影：瀧野恵太)

ソマリアに暮らす人々のほとんどがイスラム教徒。戒律上、女性が肌を露出することは禁じられており、スカーフをかぶって髪を隠し、ゆったりとした服で全身を覆っている。しかしそれでも、服装にはそれぞれの個性が見られ、スカーフはピンク、赤、青、黄と色鮮やか。世界のどこでも、女性はおしゃれが大好きなのだ。

中東やインドなどでよく見られるヘナペイントも、ソマリアの女性にとっておしゃれの一つとして人気。ヘナという植物をペーストにしたものを使い、熟練の絵師が下書きなしに手や足に細かな模様を描いていく。20分ほど放置して色をなじませ、ドライヤーを使うなどして十分に乾かしたら、後は洗い流すだけ。2週間から長ければ1カ月は美しい模様を楽しむことができる。

このヘナペイントは、実はそもそも“おまじない”のために使われてきたもの。ヘナには神の恩恵が宿っているため願いをかなえてくれると伝えられてきたからだ。今でも安産祈願を込めて、「元気な子どもが生まれてくるように」と、妊婦のおなかに模様を描くこともあるそうだ。



茶色いヘナのペーストで模様を描き...



乾燥させてからペーストを洗い流すと、肌に模様が残る

## 地球ギャラリー

### ソマリアの文化を 知ろう!

取材協力：日本ソマリア青年機構

1960年に独立するまでの約80年間、北部はイギリス、中南部はイタリアの統治下に置かれていたソマリア。その影響で、今でも南部ではイタリアから伝わったパスタが主食としてよく食べられている。

中でも定番は、ミートソースを意味する「サラダート」と呼ばれるパスタ。日本と違うのは、ソースにラクダの粗びき肉を使っていること。ソマリアは世界で最も多くのラクダを飼育しているといわれ、古来より移動手段として、ミルクや肉は食用と

して重宝されてきた。そして、味の決め手はスパイス。クミンやカルダモンなど多種多様なスパイスを混ぜた調味料「ハワシュ」は家庭料理に欠かせない。

ソマリアでは、この「サラダート」を食べる時にフォークではなく手を使うのが一般的。手首をくるくると回しながら器用に指に巻いて食べるという。そして、主要な輸出品として栽培されているバナナをちぎって一緒に食べるのがソマリア流。甘みが増しておいしいとか。

## ソマリア料理といえば ラクダのミートソースパスタ

### サラダート



#### 【RECIPE】

##### ●材料(4人前)

タマネギ1個/ピーマン2分の1個/ニンニク4片/オリーブオイル2分の1カップ/牛ひき肉900g/トマト缶2個/トマトペースト大さじ2/ハワシュ※大さじ1/砂糖大さじ1/コリアンダー(みじん切り)少々/黒コショウ小さじ1/パスタ400g

- 1 タマネギ、ピーマン、ニンニクをミキサーにかけてペースト状にする。
- 2 鍋にオリーブオイルを入れて中～強火にかけ、①を加えて2分炒める。牛ひき肉を加え、ふたをして10分煮詰める。
- 3 水分がなくなってきたら、トマト缶とトマトペースト、ハワシュを加えてよくかき混ぜ、さらに砂糖を加えたら、ふたをして中弱火で45分煮込む。
- 4 油が表面に浮かび始めたらコリアンダーと黒コショウで味を調え、ゆでたパスタと絡めたら出来上がり。

##### ※ハワシュを作ろう!

材料：クミン(粒) 小さじ3/黒コショウ(粒) 小さじ2/カルダモン(粒) 小さじ1/ターメリック(パウダー) 小さじ1/サフラン3本/クローブ(粒) 2個  
作り方：粒のスパイスは香りが立って表面に焼き色がつくまで軽く炒り、冷まして細かくパウダー状に砕く。材料を全て混ぜ合わせれば完成。